9　建築物

9―2　家の建て方

9―2―1　建築

徹別のコタンには、１軒だけ、オンネチセ onne cise と呼ばれる大きな家があった。この家だけが茅葺きの家（ムィチセ muy cise）であった。他の家は板壁で柾屋根だった。

自分の家の壁はカヤで、その外側を板で囲ってあった。床に丸太を敷いて、丸太と丸太の隙間に草を詰め、平にして、その上にキナ kina を敷いた。

［屈斜路　日川キヨ氏］

9―3　家屋の内部構造

9―3―1　屋内とその配置

屈斜路の家屋

神窓

屈斜路の家の神窓（プアㇽ puar ）は、沼の方に向いていた。

［屈斜路　日川キヨ氏］

上座

神窓に近い場所をエロルン erorun という。窓に向かって左側にポンシントコ pon sintoko（小さい行器）、クトシントコ kuto sintoko（たが付き行器）などのシントコ sintokoや、エトゥニㇷ゚ etunip （片口：酒を杯に注ぐ道具）、ペサック pesakku （柄杓：シャモジみたいな形の酒をかます（混ぜる）道具）が置いてあった。

［屈斜路　日川キヨ氏］

徹別（テシベツ）の家屋

神窓

窓（プアㇽ puar）が全部で３つあった。エロルン プアㇽ erorun puar （神窓：後に阿寒川の上流に向いている、との情報あり）の反対側にアサンド asanto があり、物置になっている。そこから外へ出る出入り口があった。神窓に向かって右手の壁にも窓があった。

家の神窓は、阿寒川の川上の雄阿寒岳の方を向いていた。

［屈斜路　日川キヨ氏］

窓は、プアル puar といい、北を向いているのは、カムィ プアル kamuy puar だ。カムィ プアルは、ヌサ nusa（祭壇）に供えるものやイナウ inaw （木弊）を出すのに使い、そのそばには、おばあさんを除いて女は近寄れなかつたし、そこからのぞいてもいけなかつた。

［屈斜路　日川キヨ氏］

プアル puar の側の左側、北西隅の壁の上部（人の背の高さより少し高い位置）に家の守り神の木弊（チセ　コロ　カムイ　イナウ cise kor kamuy inaw）をしばりつける。（釧路編７―９章参照）

［屈斜路　日川キヨ氏］

宝檀

敷物は、巻いてエロルン erorun （上座）の隅にしまう。神様用の敷物はシンドコ sintoko（行器）のある所にしまう。今でも20枚くらいもつている。毎年カムィノミ kamuynomi（神への祈り）する時に他の人に貸す。今年も12月にカムィノミがある。

カムィノミの時、模様つきの敷物を壁に張る。神に物を供えるとき、床の上にも模様付きの敷物を敷く。

［屈斜路　日川キヨ氏］

入り口

「入口」をアパチャ apaca という。子供の頃すでに引戸になっていた。イナウはなかつた。

［屈斜路　日川キヨ氏］

物置

アサンド asanto （物置）には、薪が積んであり、雪投げ（除雪）用の櫂みたいな形のスコップが置いてある。ウパシペラ upasa pera と言ったかも知れない。（釧路編８―９参照）

靴の材料のサケ皮は、夏には、アサンドに掛けて置く。冬は、たたんで樽か箱に入れておく。（釧路編８―４―５参照）

サケ皮のケリ（靴）は、よその家に行った時、アサンドの中で靴を脱いで、雪を払つて、足とすねの間で折畳み、家に入ったところに置いてから家に中に入る。（釧路編８―４―５参照）

［屈斜路　日川キヨ氏］

下座

洗濯物が外で干せないときは、炉の下手（南側）にシナの樹皮をなって作った紐をはった。

［屈斜路　日川キヨ氏］

家の南西隅には流しがあり、樽（タルと呼んでいた。アィヌ レ aynu re （アイヌ語名）は分からない）が置いてあった。樽の中にはテシベツの川から汲んだ水が入れてあった。なべ、油なども流しに置いてあった。

［屈斜路　日川キヨ氏］

9—3—2　炉とその周辺

子供の頃、病気で家で寝込んでいた頃、自分の家はすでにストーブを使っていたが、炉の中にストーブを置いていた。秋のストーブと冬のストーブは別だった。

炉縁木は、イユンペ iyunpe といい、東側、北側、西側の３方に置いてある。

ストーブの開け口は、プアㇽ puar （神窓）の方に向けていた。女の人でも薪をくべる時には、エロルン erorun （上座）に座わらないと入れられないので座ってもよかった。

ストーブに薪をくべる時に太い部分を奥にとか細い部分を前にとかうるさく言わなかった。しかし、汚いものはストーブにくべることはうるさく注意された。紙もストーブに入れはいけない。床を掃いたゴミもストーブに入れてはいけない。

ストーブの口の前を少し広くあけ、砂と芥で固めて燠（アペ ape）を置く場所を作った。カミィノミ kamuynomi （神への祈り）をするのに必要だからだ。祈りをする度に燠をそこに出して祈りを行った。

炉縁の上手の左右の隅に２本のアペウチイナゥ ape uci inaw が立ててあった。これは、アペウチカムィ ape uci kamuy に上げるもので、神窓の方から見て右（北西隅）が男神で、アペウチエカシ ape uci ekasi と言い、左（北東隅）が女神でアペウチフチ ape uci huci と言う。カミィノミ kamiynomi の時に、燠のアペウチ ape uci と２本のアペウチイナゥ ape uci inaw に酒をあげる。秋のカムィノミのとき、火にくべて、新しいものに替えた（釧路７—12—４参照）。

炉縁は、カムィノミ kamuynomi （神への祈り）の時に、アマㇺ amam （穀物）でもシㇷ゚ポ sippo（塩）でもトゥキ tuki（杯）でもカムィノミの時に載せるところだから、神様のテーブルみたいなものだと言う。人間は足をそこに載せたり、踏んだりしてはいけないと親が言っていた。足を載せると叱られた。イタンキ itanki を載せて食事をするのは差し支えない。

自分の家には、「鍋掛け」も「火棚」もなかった。

年寄りの家にはストーブがなかった。ストーブのない家には、屋根にも煙出しのプアㇽ puar （窓）があった。オンネ　チセ onne cise だけが、まだ囲炉裏を使っていた。囲炉裏の真上の天井に天窓があった。天窓は、アペ　プアㇽ ape puar と言う。朝起きたらすぐに天窓を開けた。

煙突は、まっすぐで天井の穴に抜けている。壁から煙突を出す家はなかった。他の家も天井に穴を開けて煙突はまっすぐ伸びていた。

自分の家の天井は、吹抜けで柱や梁が見える。梁と梁の間に竿を渡してあってそこに魚の開

いたのを鞍掛けにして干した。秋味の他にユゴイ（ウグイ）、アメマス、ヒメマスが干してあった。

ストーブの上にいつも鍋をかけていた。小さな鍋をポン　シュ pon su、大きな鍋をオンネシュ onne su （ポン　ナベ、オンネ　ナベとも）と言った。「鍋に水を入れなさい」ナベ　オシケ　に　ワクカ オマレ nape oske に wakka omare 。お湯は、セセクカ sesekka という。

［屈斜路　日川キヨ氏］

「薪を持って来なさい」は、ニ　エンコレ ni enkore という。「薪をたくさんくべなさい」は、ポロンノ　ニ　オカオ poronno ni okao という。火を消すことはない。寝る前に大きな薪をくべる。親達は、夜中に起きて寒いと薪をくべる。

［屈斜路　日川キヨ氏］

9—4　屋外の構造

徹別（テシベツ）は冬に雪が多かったので、ウパシペラ upasa peraという櫂みたいな形の除雪具で家の前の雪かきをした。雪かきは、テシマ tesma （カンジキ）を履いて雪を踏み固める。その踏み固めた雪をウパシペラですくって投げる。（釧路８—９参照）

［屈斜路　日川キヨ氏］

水汲み場

コタンは阿寒川の右岸なので、家から左へ行くと水汲み場に通じる。水汲み場にはワクカウシ　カムイ wakka us kamuy のイナウが立っていた。アペウチイナウ ape uci inaw くらいの大きさだった。春か秋にするカムイノミの時に水汲み場の水の神のイナウも新しいイナウに取り替える。

水汲み場は、川が流れ込んでいるところに地面を掘って室（むろ）のように木の枠で箱のように作り流れ水が溜るようにした。そこへポン　バケツ pon pakecu やガンガンを持って水汲みに行った。（実際は、阿寒川に注ぐ沢の水を汲んで来たらしいが、「阿寒川の水を飲んだ」と表現している。「沢の水は阿寒川に注ぐのだから、阿寒川と同じだ」とも表現する）

［屈斜路　日川キヨ氏］

ヌサ（祭壇）

徹別（テシベツ）のオンネ チセ onne cise ～ ポロ チセ poro cise の北側にヌサ nusa とセッ set（カムイをいれる檻）があった。ヌサには、１本の棒に１つずつクマの頭（マラット maratto）が取り付けてあった。普通の家にはヌサはなく、ヌサは部落に１つだけだった。ヌサウシカムイ nusa us kamuy というのは、ヌサに立てるイナウのことで、「山の神」（ポン モシリ pon mosir の神とオンネ モシリ onne mosir の神）、「川の神」（ワクカウシカムイ wakka

us kamuy)、「湖水の神」(トーコロカムィ to kor kamuy)、「家の神」(チセコロカムィ cise kor kamuy) に上げるイナゥが立ててある。家の神に上げるイナゥは、家の中にもあった。

〔屈斜路　日川キヨ氏〕

使い古した道具などは、オンネチセ onne cise (コタンの大きな家) のヌサ nusa (祭壇) の近くの木の根元 (ネキ) に置く。

〔屈斜路　日川キヨ氏〕

プクサ pukusa などを干すときは、家の東側のセッ set (クマ檻) の近く (オンネ　チセでの事か?) にゴザを敷いて干していた。

〔屈斜路　日川キヨ氏〕

便所

便所は、アシンル asinru といった。家からみて南側にあり、男女兼用のものだった。

〔屈斜路　日川キヨ氏〕